

亀岡市総合計画審議会 平成30年度第1回進行管理部会 議事要旨録

日 時：平成30年7月10日（火）午後2:00～3:35  
場 所：亀岡市役所 別館 会議室  
出席者：尾崎委員、渋谷委員、手塚副部長、原田部長、福阪委員、矢田委員  
欠席者：今里委員、野中委員  
議 題：1 開会  
2 企画管理部長あいさつ  
3 部長選出及び副部長指名  
4 議事  
（1）平成30年度後期基本計画・行政評価の対象施策及び事業について  
（2）平成29年度行政評価の反映状況について  
（3）その他  
5 閉会

1 開会

2 企画管理部長あいさつ

3 部長選出及び副部長指名

事務局

- ・次第に従い、当部会の部長の選出を行う。
- ・亀岡市総合計画審議会条例第6条第3項で、部長については委員の互選によって定めるとされている。
- ・選出についてお諮りする。

A委員

- ・前回に引き続き、原田委員を推薦する。

各委員承認

事務局

- ・ただ今、部長を選出いただいた。
- ・続いて、亀岡市総合計画審議会部会設置規則第4条第4項により、副部長は委員のうちから部長が指名するとされているので、指名をお願いする。

部長

- ・前回に引き続き、手塚委員をお願いする。

4 議題

（1）平成30年度後期基本計画・行政評価の対象施策及び事業について

○資料説明（事務局）

部長

- ・資料No.3の「施策評価調書」の書き方について、今回初めての方もいるため、簡単に説明する。1番上に政策といって漠然としたものがある。例としては「安全安心なまちづくり」とあるとする。

- ・施策に関しては「安全安心なまちづくり」という政策において、救急医療や交通安全など色々な分野の中で、例えて言うなら「交通事故ゼロを目指しましょう」となったとする。これが施策であり、総合計画でいうと「章」の部分にあたる。
- ・事業というのは、「そのためにカーブミラーを何本つけるか」や「横断歩道をどう整備していこうか」、「学校のまわりをゾーン 30 に指定していきましょう」などといったものである。
- ・今回の評価の対象としているのは、基本的には施策の単位である。評価をしている側もされている側も施策、事業といった線引きが難しくなっている。一つ一つの事業という単位ではなく、施策のレベルで行政の取り組んでいる事がどの程度、貢献しているのかといった視点で、各担当の説明を聞いた中で評価をしていただきたい。
- ・具体的な話になるとどうしても事業単位の話になるが、それを踏まえ施策全体としての評価を話し合っていきたいと思う。
- ・行政評価について、次回で各課より説明を受けるのか。

#### 事務局

- ・第 2 回で、それぞれの担当の部に説明していただく。

#### 部会長

- ・評価するにあたって過去にも議論になったのが、5 年間の計画の中で達成度を 100%にする場合、例えば 20%ごとに毎年行っていけばいいのか、それとも事業によっては最初の 3 年に集中して行ったほうがよいのかといったことである。また、事業の内容を精査した結果、最初の 1, 2 年で検討、計画をするといった事業もある。そういった意味では、最初の 1 年の達成度が 5%であってもよい。単に、20%ごとに進まなければいけないといったことではないという事を、我々評価する側も各担当とも共有したい。
- ・また、資料 No2 の進行管理調書に関して例として「障害者啓発事業」（具体的施策 No. 100）の裏面の「障害者差別解消法に基づく合理的配慮の提供に関する相談、問い合わせ、苦情件数」とある。「年間 5 件以内」が成果指標であるが、5 件を超えた場合、それが悪いのかといったこともある。
- ・市民の方が、障害者に対して良くないことを目撃し通報が増えたとしても、それは決して悪いことではない。そういった意味では「年間 5 件以内」というのは、市民の方が、よく通報する状態になって、その上で 5 件以内であればよいといった見方もできる。
- ・そういったことも踏まえ、各担当と事業の性質も含めて協議し、評価をしていく。また、重要性と手法の妥当性は、事業の手法でもっと効果的なやり方があるのではないかと、事業費の別の使い方があるのではないかとといったことに対して、分けて評価をしていく。
- ・アウトプットとアウトカムとあるが、アウトプットというのは事業において行ったことを表しており、アウトカムについては行ったことに対して、どれだけの成果を得ることができたのかといったものである。アウトカムの評価のほうが、評価する側もされる側も不慣れなところがある。場合によっては、話し合いの中でアウトカム指標について疑問点があれば、指摘していただきたい。これは決してマイナス評価ではないため、次回は気づいたことを指摘していただきたい。

## （2）平成 29 年度行政評価の反映状況について

### ○資料説明（事務局）

#### 部会長

- ・防災の中で SNS の活用についてあったが、災害が起きた時には不確かな情報、デマといったものが多い。しかし、今回の災害では、市長自ら SNS を通じて災害に関する情報を発信したことで、一定そういった状態を止めることに役に立っていたと思う。
- ・南丹市の場合は、災害の際に最も情報発信をしていたのはスプリングスひよしであり、南丹市の情報はほとんど発信されていなかった。亀岡市は、よく情報を発信してくれていた。

## B委員

- ・市長は30分、1時間ごとくらいに発信していた。また、日吉ダムの水位に関しては5分10分単位で発信していたのではないかと感じた。

## 部会長

- ・ツイッターでは日吉ダムが決壊したといったデマが流された。実際、嵯峨嵐山の桂川付近の市民はその情報を信じ込んでしまった。しかし、その時に行政が随時情報を発信していたため、すぐにデマと分かった。

## B委員

- ・今回、被害の大きかった広島の方でもSNSを使ったデマがあり、警察が対策を講じていた。また、空き家に窃盗団が押し入ったというデマもあったと聞く。
- ・SNSについては、確かな情報であれば良いと思う。

## 部会長

- ・今回、災害対策本部会議ごとに、市長が随時情報発信をしていた。その際に、行政職員を労う言葉が多くあった。そういったことが、市に対する信頼につながり、施策に対する信頼にも繋がっていくのではないかと。

## 事務局

- ・災害対策本部会議については、7月5日から8日まで合計12回開催し、その都度情報交換を行い、各担当ごとに対策を講じた。土木担当が道路、河川を担当し、農地や家屋の状況についても様々な情報を共有した。それを市長が情報発信していた。
- ・また、防災メールを活用いただいたら、より一層正確な情報について得ることができたのではないかと。

## 部会長

- ・男女共同参画の事業「女性の相談室」について、アウトリーチについて、積極的に取り組んで欲しいとあるが、先月、ハワイのホノルル市役所にいった際、スタッフの方に「アウトリーチ専門官」の肩書を持った人がいた。市民の皆さんにどう情報を伝えていくのか、発信していくのかといったことについて、各部局にその専門官を配置していた。
- ・亀岡市のような規模の自治体で、年中その作業を行う専門官を配置するのは無駄かもしれないが、女性の問題や防災、障害者の問題等に関しても、責任を持って情報を発信する人を配置することを検討してはどうか。今回の災害で、すごく情報発信に関して効果が出たため、そう感じた。
- ・今までにもあったとは思いますが、どんどん外に出て行って団体、学校、地域など様々な場所に行き、聞いて回る専門的な人がいたらいいと思う。

## A委員

- ・PTAの顧問の立場で参画しているが、消防署に勤務している。今回の災害でいくつか気になることがあった。災害が発生すると、地域によって被害も異なり、さらに地域の中でも河川域、山裾などで被害状況は変わってくる。その中で、大きな組織としての対応には限界を感じている。細かい情報に関しては各自自治会が持っており、それぞれ対応をしていただいた。
- ・今回、大きな被害のあった畑野町でも河川域に住んでいる方で、早期に避難をされている方がいたが、遅れている方もいた。そういった方は消防隊が避難の応援に向かった。1人亡くなられた方もいて痛ましいが、その時も出動していた。
- ・本梅町から畑野町に繋がる道があったが、土砂崩れで通行止めになった。最初、土砂崩れを聞いたときどのようにして畑野町に入ろうか迷ったが、畑野町の方が重機か何かで土砂をどけていただいて救急やレスキューの車両が通ることができ、大事には至らなかった。
- ・また、ハザードマップも活用したとのことで、自治会単位で防災対策を行っていただくことが細か

い対応ができる方法なのかなと思う。

- ・市の広報車が猛スピードで走って行ってしまい、何を言っているのかわからなかった。そういったことも見直し、広報についても新たなマニュアルづくりを進めていってはどうか。

#### C委員

- ・今回、避難所の開設に当たって素早い対応をされていたが、避難対象地区の境目に住む方で、車いすを利用しなければいけない人がいる。その方は、指定の避難所である南つつじヶ丘の自治会に向かう際には坂を上がっていかなければならないが、下ってつつじヶ丘の自治会へ向かったほうが行きやすい。そういった際もどうすればよいのかと思う。

#### 事務局

- ・そういったこともこれから考えていかなければならない。まずは、自身の避難所がどこにあるのかについても周知をしていきたいと思う。

#### 部会長

- ・今回、体育館への避難はなかったが、実は避難所の国際基準で、スフィア基準といったものがある。日本はどここの自治体も集会所や体育館に避難をしたりするため、プライバシー保護が重視されない状況にある。言葉は悪いが難民キャンプよりひどい状況といわれることもある。
- ・国際的には避難所に関しては、避難をする権利が市民にあるという考え方であり、国が責任を負って避難者を受け入れなさいとされている。
- ・集会所や体育館に避難するのが当たり前といったことは、国際的には遅れている。イタリアでは、コンテナでプレハブ小屋のようなものが作られ、地震の際はそこに家族ごとに入居でき、トイレ等も完備されている。震災があった際は、国が速やかにそれを用意することで、震災関連死を減らしている。日本は震災関連死が非常に多い。
- ・水害に関しても、土砂災害に関しても、長期に渡る避難者の数はそれほど多くない。亀岡市においてもセーフコミュニティのまちとして、国際基準を参考にした施策を検討してみてもどうか。

#### D委員

- ・亀岡では、平和池の決壊等で水の怖さは皆よく知っている。水の意外性や水害について研究していかなければならない。今回の豪雨についても、これまでの経験で怖さを感じた。

#### 部会長

- ・道路も鉄道も止まり、陸の孤島になったが、何か月もの長期間に渡るものではない。封鎖された道路も少しの雨で度々封鎖されるところであり、すぐに止まるといったことを前提に考えて行動することが必要である。事業所においても、そういった場合には出社を控えるなどを考えてもらいたい。国道9号よりも京都縦貫自動車道のほうが安全であるため、50km規制し、1車線にするなどにより通行止めを回避することも考えてもらいたい。

#### D委員

- ・この間も、JR嵯峨野線、国道9号、京都縦貫自動車道が止められて大変だった。そんな中で行政が状況を見て1本でも通してもらえば助かる。市のパトロールカーも、封鎖された箇所を見回っていたが、確認したらUターンして帰るだけであった。長期間に渡り、車にいることを余儀なくされ、近くのコンビニで必要なものを買うなどして過ごしている人もいた。そういったときに、1本でも通してもらったら助かるのではないか。

#### 部会長

- ・今回、広島においてもコンビニのトラックが緊急車両として扱われた。緊急車両と大型の車両に関しては優先的に通すなどの方法も柔軟に考えていけないのではないか。大型車が滞留すると市内の交通も影響を受けることになる。

#### B委員

- ・老ノ坂に関しては、道路の幅が大型の車両1台がやっと通れるだけの部分もあるため、今後何か対

策を考えないといけないと思う。そういった箇所では、大型のトラック1台が止まると後続はすべて止まってしまう。そういった事も考えておかないと、いつまで経っても、災害時に陸の孤島になるといったことは解消されない。

- ・亀岡市が、京都府の中間に位置していることも考えると、その場所が麻痺してしまうとどうしようもなくなる。まして、京阪神に通じる国道423、372号すべてがトラックにより渋滞するといった事を想定してまちづくりを進めていかなければいけない。
- ・短期間の災害対策ではなく長期間といったことも含めて考えていかなければいけないのではないかと。

#### 部会長

- ・ダブルルートと盛んに言われているが、同じ個所に2本作るのではなく、老ノ坂の他には、保険を掛けるという意味で別の場所のルートも必要になってくる。

#### B委員

- ・ダブルルートについて、行政、商工会、経済団体と協議し、亀岡市との意見を一本化し、国や京都府に要望していこうという動きもある。また、雨の際も影響を受けないトンネルを作るといったことに関しても、早急に結論を出していかなければいけないのではないかと。

#### A委員

- ・京都縦貫自動車道は救急車については通れた。通行止めになる寸前に京都に向かったので、帰ってこられるかわからなかったが、吹田管制室に相談し、何とか通行をお願いした。

#### 部会長

- ・男女共同参画にも関係するが、避難所において女性の必要なものについて、自治会の会長も高齢の男性が多いため、なかなかそこまで配慮が行かなかつたり、場合によっては贅沢品であると述べる自治会長もいて東日本大震災でも問題になった。高齢の男性に対して、若い女性がなかなか物を言いにくいといった現実もある。避難所における男女の平等に対する対策については、市として何か取り組んでいることはあるか。

#### 事務局

- ・男女の平等といった観点ではなく、防災の話になるが、亀岡市も企業との防災協定は結んでおり、今回も避難所に対する食糧の提供を頂いた。そういった必需品の提供もいただくと理解している。
- ・避難所の運営という意味では、全ての避難所を開設している場合、現在の職員数で緊急を要する現場の対応や河川、ため池、道路などの確認作業等しながら、避難所の運営ができるかということ、職員だけでは手が足りないのが現状と思われる。
- ・幸い、6月の地震についても避難者が出るほどではなかったし、今回の災害についても避難勧告、避難指示は大勢の市民を対象に出ていたが、被害があった地域も限定されていたため、実際の避難者も少なく、対応できていたと思う。現場の対応、避難所の対応についても各自治会において組織されている自主防災会にお世話になっているし、消防団にも今回大変お世話になったと思う。
- ・また、他市等との災害時の連携に関しても、普段から行っている。亀岡市も現在、熊本県益城町に職員を派遣している。お互いに助け合いの体制を作っておけば、亀岡市が被災した時には、支援いただけたと思う。

#### 部会長

- ・自身の祖母が高齢であり、足腰も弱っている。必需品を購入する際は、自宅から遠くの店に買いに行かなければいけない。今回はダブルルートがあったため必需品を買いに行けたが、避難所を開設する際に、市で避難所での必需品のチェックリストみたいなものがあれば、段階別に応じて市民と共有していることも大切である。
- ・また、いざ避難指示が出た際に自宅のブレーカーは落としていったほうが良いのかなどについてわからない場合がある。これに関しては、愛媛県の伊予市が分かりやすいリストを作っていた。ガスの元栓や、ブレーカーについても書かれていた。避難指示を出すと同時に、チェックする箇所等を、情報を与えすぎない程度に亀岡市の視点も加えながら作成することも検討してはどうか。これは、

アウトリーチにもつながる話である。一目見てすぐにわかる一覧表を作成し、ただ避難指示を出すだけではなく、物事の優先順位をすぐにわかるように、指示を出していただけたらよかったと思う。

#### 事務局

- ・避難指示対象者の数を、避難者の数と勘違いされて、そんなにも多くの人が避難をしているのかと思われたが、実際の避難者数はそれほどではなかった。河川水位等の基準に基づいて、避難勧告、避難指示を出したが今後、避難者の状況についても発信を検討していかなければいけないと思う。
- ・また、今までは避難勧告を出すということはあまりなかったが、土砂災害等により被災する恐れのあるエリアが分かるようになり、その地域に避難勧告等を出せるようになった。

#### 部会長

- ・手塚副部会長がおっしゃっていたが、留学生が大学の寮などに住んでいるが、特に災害に慣れていないと思う。地震についても生まれて初めて経験するかもしれない中で、災害が起きた際に英語の案内がなかった。そういったことで、留学生の保護者も何が何だかわからず、不安を増幅させた。今回の災害時に、英語での情報発信はしていたのか。

#### 事務局

- ・それはできていなかった。

#### 部会長

- ・特に留学生や外国人観光客については、会話は日本語でできても漢字等が読めない方が多い。亀岡市においても、結構な数の外国人が暮らしているため、情報発信するときに最低でも英語の情報発信を検討してみてもどうか。

#### 事務局

- ・事前に文面を準備しているものは、外国人対応、障害者対応はある程度できるが、緊急の対応の際はどこまでできるかわからない。英語の語学力のある職員が十分にいるかどうかと言ったら難しい。
- ・機械で英語への変換ができる精度が上がってくれば対応もできるが、今の変換能力では、正しい英語になるか疑問である。今後、そういった技術についても、活用していきたい。

#### 部会長

- ・避難所の開設の際などは、テンプレートなどを活用し、地名を変更するなどして対応できると思う。また、普段の情報発信の際に日本語と英語での情報発信をしたらどうか。そうすれば緊急の時にも、外国人は安心できる。観光客だけではなく、留学生、また市内在住の外国人の方にも有効である。せめて英語くらいはあっていいと思う。

#### 事務局

- ・避難所での話になるが、畑野町の被災地につつじ分団の10名ほどの女性隊員が駆けつけてくれ、路面の清掃活動を行った。男性は土砂を撤去し、女性は細かい視点で清掃活動を行っていた。そういった意味では、良い役割分担ができていた。自主防災組織の中に、女性も入っていただくことも良い方法ではないのか。自治会長も喜んでいた。

#### C委員

- ・普段から訓練しているからできたと思う。一般の女性には難しいと思う。

#### 事務局

- ・女性に対して何かできることはないかという視点で考えれば、自主防災組織の中に女性を加えることも有効なのかもしれないのではないか。

#### 部会長

- ・自治会の役員については敬遠されがちであるが、日本のどこに住んでいても地震はある。被害が起きてからでは遅いため、被害がそれほどないときに色々、対策案を考えたらどうかと思う。
- ・今回そういった意味では、亀岡市は普段からの備えがしっかりできていたと感じた。私も保津川かわまちづくりの委員をしていたが、今回は4年前の災害時よりもダムの放水量が多いにもかかわらず、水位がほぼ想定内に留まったというのは、すごいことだと思う。他市の方も驚いていた。本市

での川近くの乱開発に対して、一定の歯止めをかけていたことの効果はこういった時にわかるものである。

### (3) その他

#### 部会長

- ・では、色々ご意見いただきましたが、議事の「その他」の箇所です事務局から何かあるか。

#### 事務局

- ・特にありません。

#### 部会長

- ・提案であるが、今回席にお茶を用意していただいたが、海外の自治体、特にアメリカの自治体では会議の際のお茶といったものは公共調達から外している。ごみの問題などもあるが、水道の利用を推進している。亀岡市はせっかく水がおいしいところであるため、可能な限り亀岡市で主催する会議の際に、水道水を提供してみてもどうか。海外では、ボトルのみを持って来させ、サーバーが置いてある。
- ・あくまで個人的な提案であるが、検討いただけたらと思う。

## 5 閉会

#### 事務局

- ・次回の進行管理部会は、8月中旬から9月上旬頃に開催を予定している。本日の議題事項について、所管課から説明し、評価をいただく予定をしている。
- ・なお、昨年度実施した地方創生事業について、検証をしていく必要がある。次回の部会では行政、金融、労働分野の有識者にも出席いただき、検証を行う予定としている。